

事業ID: 助成契約書から事業IDを記載  
事業名: 海と日本プロジェクトinえひめ  
団体名: 海と日本プロジェクトinえひめ 実行委員会

極秘

## 7.オリジナルイベント

## 7-(1) オリジナルイベント開催概要

イベントタイトル	夏井いつきと行く俳句合宿 第3弾 海の恵みに感謝！
イベント概要	海と日本プロジェクトinえひめでは、俳人夏井いつき先生監修のもと、昨年に引き続き、「俳句」で海を表現する、愛媛らしい企画を実施します。2018年7月に西日本豪雨災害を受けた松山市・忽那諸島を開催場所とし、漁体験や、磯の生物観察、島飯作り体験など、島ならではの様々な“海”を体験したり、島民との交流や海洋ごみ問題などを学習します。2日間で感じた“海”への想いを愛媛ならではの俳句で表現します。
実施期間	2019年8月7日(水曜日)～2019年8月8日(木曜日)
開催場所	怒和島
参加人数	18人(小学6年生6名、小学5年生12名)
主催	海と日本プロジェクトinえひめ実行委員会
共催	なし
協力	松山市子規記念博物館、まつやま里島ツーリズム連絡協議会、中島汽船(株) 石崎汽船(株)、伊予鉄道(株)、せとうち旬彩館(愛媛県)
事業目標	<ol style="list-style-type: none"><li>怒和小学校で結団式 愛媛県全域から小学5、6年生を20名募集</li><li>クダコ釣り体験漁体験&amp;潮流体験クルージング 参加小学生に海の恵みを感じ、 海のメカニズムと生命の営み理解を深めてもらう</li><li>島内周遊吟行ツアー&amp;島体験 島の生活を体験し、魅力に触れ理解を深めてもらう</li><li>海ごみ回収、海ごみ学習 愛媛県の海ごみについて学び、理解を深めてもらう</li><li>俳句による成果報告 参加小学生が俳句で成果を発表する 子ども達の俳句優秀作を掲載したポスターと広告を作成し、県内JR及び、 港、私鉄の駅などに掲示</li></ol>

## 7-(2) イベント詳細

イベント詳細	
	<p><b>1. 怒和小学校で結団式</b> (1)時期: 2019年8月7日(水)～2019年8月8日(木) (2)場所: 怒和島 (3)募集: 愛媛県全域から小学5、6年生を募集 (4)募集条件: 事前募集 愛媛県内の小学生5、6年生</p> <p><b>2. クダコ釣り体験漁体験&amp;潮流体験クルージング</b> (1)時期: 2019年8月7日(水) 9:30～11:30 (2)場所: 怒和島 (3)参加者: 18名(小学6年生6名、小学5年生12名) (4)内容: 島民の方々の協力のもと、漁船3隻で釣体験を実施。日本屈指の漁場である怒和島沖クダコ海域での釣体験をしてもらい、瀬戸内海の豊かな海の恵みを肌で感じながらも、地元漁師の方からのお話を聞き、近年の漁獲量などの減少についてなど、変わりゆく海の環境について学ぶ。</p> <p><b>3. 島内周遊吟行ツアー&amp;島体験</b> (1)時期: 2019年8月7日(水) 13:00～14:30 (2)場所: 怒和島 (3)参加者: 18名(小学6年生6名、小学5年生12名) (4)内容: 松山里島ツーリズム連絡協議会の田中会長を講師とし、怒和小学校からはじまり、潮流見学、潮の満ち引き見学、歴史ある神社などを巡る。また、夏井&amp;カンパニーの家藤さんも同行し海にまつわる季節の学習などを行い、島の海の魅力に触れる。</p> <p><b>4. 海ごみ回収、海ごみ学習</b> (1)時期: 2019年8月7日(水) 15:00～16:00 (2)場所: 怒和島 (3)参加者: 18名(小学6年生6名、小学5年生12名) (4)内容: 瀬戸内海の海洋漂着物の調査、研究を行なっているビーチクリーンしまなみ所属の藤原さんを講師とし、小学校前の海岸で漂着ごみを拾い、拾ったごみをもとに解説や海洋ごみについての学習会を実施し、深刻な海洋ごみ問題を自分事として理解する。</p> <p><b>5. 俳句による成果報告</b> (1)時期: 2019年8月8日(木) 09:30～11:00 (2)場所: 怒和島 (3)参加者: 18名(小学6年生6名、小学5年生12名) (4)内容: 国民的ブームを呼んだ俳句の火付け役となった俳人・夏井いつきさんを講師に招き、俳句講習を実施。参加者は1日目の海・島体験を通して感じたことを句で詠み、お互いに発表し合うことで体験した感動を共有。</p>

## 7-(2) イベント写真

### クダコ釣り体験漁体験&潮流体験クルージング



### 島内周遊吟行ツアー&島体験



### 海ごみ回収、海ごみ学習



### 俳句による成果報告



7-(3) その他

<p><b>配布物</b></p>	<p>①募集チラシ5,000部                  ②取材ノート2,000部                  (俳句手帳)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
<p><b>目標の達成状況</b></p>	<p>1の達成状況: 参加人数20名で募集し、18名の応募があった。俳句合宿第三弾ということもあり、イベント内容に工夫が足りず応募数が募集数を下回り、達成ができなかった。ただ体験するだけでなく、その先の学びに重点を置きイベント参加後、海に対しての意識変革と行動に移す力を身に付けられるような仕掛けが必要だった。</p> <p>2の達成状況: 変わりゆく海の環境を地元漁師の方からお話いただき、昔と今では随分環境が違うことを学んだ。</p> <p>3の達成状況: 怒和島の海の環境や自然に触れる体験ができた。</p> <p>4の達成状況: 海岸のごみを拾うだけでなく、ごみを減らす意識改革につながった。一方で海プロの見解と違った考えを持った海ごみ講師の方をキャスティングしてしまった。現場で海プロスタッフや、MCから海プロが目指す趣旨・活動目的をフォローした。</p> <p>5の達成状況: 海から得たネタを元に俳句を作った結果、ごみに関する句が予想以上に挙げられた。俳句作品をポスター化し、松山市内伊予鉄道車両内に掲載し、多くの方々の目に触れて頂いた。</p> <p><b>事業実施によって得られた成果:</b>                  海ごみ問題が世界中で取り上げられている中、想像以上に子供たちも関心を持っていることが分かった。座学では実際には見たことのない海の現状を見て悲しむ表情をする子供たちも少なくなかった。海は人間の生活を支えてくれる大切な場所であることを理解し、より一層海への関心を高めることができた。</p> <p><b>成功したこととその要因:</b>                  体験から得たことを俳句で表現した際に海ごみについての句も予想以上に挙げられ、海岸清掃と海ごみ学習会を実施したことで海ごみへの関心を持たせるきっかけ作りができた。</p> <p><b>失敗したこととその要因:</b>                  ライフジャケットの知識に誤りがあった。事前に確認できていなかったことや普段から意識していなかったことに要因があった。誤りがあると分かった際に、参加者へ正しい知識についてフォローを入れた。                  講師の方による講座では、漂流・漂着ごみについて研究しているが、マイクロプラスチックや、海ごみ問題について正しい知識を持ち合わせていたとは言えなかった。事前打ち合わせが十分に足りていなかった。</p> <p><b>活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案:</b>                  子供でも理解できる「海への学び」をイベント全体に組み込むことが必要。                  同企画が3年目を迎え、イベント参加者にとっての目新しさや、興味をひく仕掛けが、企画立案段階から必要であったと感じている。</p>

### 7-(4) メディア露出状況

#### 自社媒体

- ・募集告知CM テレビ 2019年7月1日～7月17日 15秒×30本
- ・南海放送テレビ 応援動画(特別番組)  
2019年8月30日(金) 10:30～10:55



#### 他媒体

- ・南海放送ラジオ 2019年7月1日～7月17日 20秒×40本
- ・テレビ朝日「羽鳥慎一モーニングショー」  
『ワンダふるさと』コーナー 2019年8月16日(金)
- ・チラシ 5,000部
- ・伊予鉄中吊広告  
2019年11月6日(水)  
～11月12日(火)

